

第5回 ハンドマイクのニュー・スタンダード SENNHEISER / NEUMANNの ハンドマイクの魅力に迫る



SENNHEISER e900シリーズの魅力について語る鈴木氏

マイクはリハーサル・スタジオやライブハウスで当たり前のようにレンタルできます。しかし、そのマイクは自分の出したい音に合っているのでしょうか。レンタルが当たり前になりすぎて、マイクと自分の声の相性やマイク自体の性能について疑問を持つことは少ないと思いますが、果たしてそれで良いのでしょうか。マイクは自分の声が1番最初に通ることになる入り口なので、使うマイクによってサウンドは激変します。ギタリストがギターやエフェクターにこだわるように、ボーカリストもマイクにこだわるべきなのです。そんな中、近年急激にファンを増やしているのがSENNHEISERのevolution 900シリーズのハンドマイク。同グループのNEUMANNのハンドマイクと共にその魅力に迫るべく、ゼンハイザー・ジャパンのプロダクト・マーケティング/ISマネージャーの鈴木氏、プロダクト・マーケティングの山本氏にお話を伺いました。

モデル名に隠された秘密

--- 1945年にドイツのハノーヴァーで設立したSENNHEISERは、設立以来その高い品質でオーディオ・エレクトロニクス界に多大な影響を与えてきた世界的な音響機器メーカー。その技術力を注ぎ込み、ワールド・クラスの音質と手軽さを兼ね備えたスタンダードがevolution 900 (e 900) シリーズです。e900シリーズには「e 935」、「e 945」、「e 965」と3つのハンドマイクがラインアップされていますが、この3モデルの違いはどこにあるのでしょうか。

ギタリストがエフェクターを選ぶように ボーカリストは自分に合ったマイクを選べ!!

ドのようなケースではスーパー・カーディオイドの方がハウリングを含めて音が立つという意味で有利なのですが、少しでもマイクの軸がぶれると急にレベルが下がってしまうなどシビアな部分があるんです。両者は指向性が違うので音にも若干違いはありますが、基本的なキャラクターは同じです。もし最初を選ぶマイクであれば、扱いやすいe 935がおすすめです。

そして、これらのラインアップはSENNHEISERのもう1つの軸であるワイヤレスにもつながってきます。TVなど業務用途でもよく使っていただいているSKM 5200というワイヤレス・マイクがあるのですが、そこで標準的に使われているマイク・カプセルはe 935なんです。つまりSENNHEISERのダイナミック・マイクのスタンダードという位置づけです。

SENNHEISERならではの品質

--- 近年では、ステージでもコンデンサー・マイクのクリアなサウンドを求めるボーカリストが増えてきていますが、コンデンサー・マイクは製造環境が品質に大きな影響を与え、それぞれがSENNHEISERのアドバンテージにつながっていると鈴木氏は語ります。

鈴木：ダイナミック・マイクは、今やSENNHEISERでもロボットが作っています。コイルの巻きなど、昔は熟練した技術者が手作業で行っていた行程も今の技術ではロボットで熟練工の精度まで出せるんです。ところが、コンデンサー・マイクになるとそうはいきません。ダイアフラムの製造には、未だロボットでは再現できず、顕微鏡を使って技術者が手作業で行う必要があるんです。

この作業を行うクリーン・ルームの設備は、長く安定して使えるコンデンサー・マイクを作る上で最も重要な要素です。e 965もSENNHEISERとNEUMANN共同の大きなクリーン・ルームで作られており、これが製品品質の安定につながっています。

e 965はグリルを取るとカーディオイドとスーパー・カーディオイドの切り替えやPADやローカットのスイッチが付いています。ここで、シチュエーションに応じて特性を選べるようになっていきます。

山本：これはダイナミック・マイクにも言えることですが、SENNHEISERやNEUMANNの製品は安定した高い品質を実現するため、1本1本丁寧なチェックを経てから出荷されています。

鈴木：e 965のサウンドは綺麗過ぎて、ステージではe 935やe 945に比べて音の線が細いように感じるかもしれませんが、含まれている情報量の多さは圧倒的だと思います。

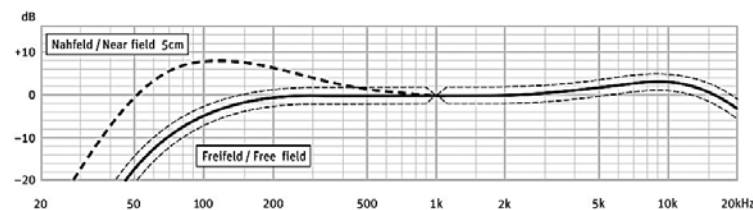


e 965はグリル内のスイッチで、指向性の切り替えが行える

声をありのままに届けるマイク

--- ハンドヘルド・マイクと言えば、スタジオやライブハウスなど、どこでも見かけるデファクト・スタンダードが存在していますが、それらとe 900シリーズの違いはどこにあるのでしょうか。

鈴木：もちろんサウンドには好き嫌いがあありますが、いわゆる定番のダイナミック・マイクとe 900シリーズを



NEUMANN / KMS 104の周波数特性表

比較した場合、ハイエンドまできちんと伸びていることによるクリアさと、ダイナミック・レンジの広さが特徴になると思います。SENNHEISERのマイクロホンは主張しない...つまり、マイクで音を作ることはせず、あくまでボーカリストの声をそのまま反映するというポリシーに基づいて作られています。「ハイエンドまできちんと伸びることが、価値のあること」という考えなんです。

山本：「主張しない」というコンセプトは製品のデザインにも表れています。あくまでマイクですから、アーティストを引き立てなければいけません。例えば、グリルも「いかにもマイク」というものではなく、わざわざ青にしているのはボーカリストの表情を引き立てるための工夫なんです。

当社のマイクを使っていた方からは「音が出てくる」「明瞭度が高い」「密度がある」といった評価をいただいています。昨今はミキサーからスピーカーに至るまで、高性能になっています。それに対して、定番と言われているマイクの設計は随分古いものが多いです。当時の音響機器の性能を考えると決して悪いものではなかったのですが、今の技術と照らし合わせると、周波数レンジやダイナミクスが犠牲になってしまうことも少なくありません。どんなに良いミキサーやスピーカーもそのポテンシャルを活かすためには、音の入り口であるマイクにも高品質なものが求められていると思います。

鈴木：定番は定番の良さがあるのも事実ですが、読者の皆さんには、いろいろなマイクロフォンを試していただきたいですね。SENNHEISERのマイクロフォンは「主張をしない」という考え方で設計されていますが、表現力と言う面では、どのメーカーにも負けない緻密さを持っていると思っています。バンド演奏の中に埋没しそうになった時に活躍する救世主になったと言う感想をいただいたことがあります。ダイレクトなサウンドを目指されている方には是非試していただきたいと思います。

しっとりとした芯のあるサウンド

--- NEUMANNと言えば、レコーディング・スタジオの定番マイク・ブランドですが、KMS-104/105はスタジオ・クオリティーのサウンドをライブで実現するモデルとして、注目を集めている1本です。

鈴木：NEUMANNのハンドヘルドのコンデンサー・マイクがKMS-104/105です。ノラ・ジョーンズさんをはじめ、様々なアーティストの方に使っていただいています。e 900同様、SKM 5200ワイヤレスでKK104/105というカプセルを利用可能です。

クセのないSENNHEISERとは異なり、KMS104/105はNEUMANNサウンドそのもの。ハンドヘルドでもレコーディング・スタジオで定番のサウンドが継承されており、多くの方に気に入っていただいています。このサウンドの違いは特性表にも表れており、ハイエンドがなだらかに落ちていっているのがわかるとは思います。ハイエンドがきつくなると、しっかりと芯のあるサウンドを得ることができるんです。ライブだけでなく、制作現場で使われているプロの方もいらっしゃいます。

--- クリアさと原音に忠実なサウンドを目指したSENNHEISERと、明確な個性を持ったNEUMANN。同じグループ企業でありながら、サウンドの方向性がまったく違うのは興味深いところです。

いずれにしても、マイク選びは非常に奥が深く、「定番を持っておけば安心」というような単純なものではありません。良い/悪いではなく、自分の声質や求める質感に合っているのか？を実際に試した上でチョイスすることが何より大切なのです。

SENNHEISER / e 935



ダイナミックマイクロホン
指向性：カーディオイド
開回路感度：2.8 mV / Pa + 1 dB
(自由音場、無負荷、1KHz)
周波数特性：40 - 18,000 Hz
公称インピーダンス：350 Ohm
寸法：47 x 181 mm
重量：330g

SENNHEISER / e 945



ダイナミックマイクロホン
指向性：スーパーカーディオイド
開回路感度：2.0 mV / Pa + 1 dB
(自由音場、無負荷、1KHz)
周波数特性：40 - 18,000 Hz
公称インピーダンス：350 Ohm
寸法：47 x 181 mm
重量：330g

SENNHEISER / e 965



デュアルダイヤフラム式
ピュアコンデンサーマイクロフォン
指向性：カーディオイド/スーパーカーディオイド切替式
開回路感度：7 mV / Pa
周波数特性：40 - 20,000 Hz
寸法：48 x 199 mm
重量：398g

NEUMANN / KMS 104



コンデンサー・マイクロホン
指向性：カーディオイド
開回路感度：4.5 mV/Pa (1kohm, 1KHz)
周波数特性：20 - 20,000 Hz
供給電圧：48 V ± 4 V
寸法：48 x 180 mm
重量：300g

NEUMANN / KMS 105



コンデンサー・マイクロホン
指向性：スーパー・カーディオイド
開回路感度：4.5 mV/Pa (1kohm, 1KHz)
周波数特性：20 - 20,000 Hz
供給電圧：48 V ± 4 V
寸法：48 x 180 mm
重量：300g